

公益社団法人京都染織文化協会

平成29年度事業計画（案）

<基本方針>

古くは平安時代から発展してきた日本の染織文化とその技術は、ライフスタイルの変化に伴う伝統文化の継承困難によりその存続が危ぶまれている。当協会では、染織に関わる所蔵資料やネットワークを通じて、あらゆる方法により一般社会に広く啓発することで染織文化・染織技術への理解と関心を深め、次代に継承していく。

1. 公益事業

「染織文化資源の保全と啓発事業」

■ 「染織祭」の詳細調査並びに公開（継続事業）

昭和6～26年に染織業の発展を祈念し盛大に執り行われた「染織祭」について北野裕子氏（龍谷大学社会科学研究所客員研究員）に依頼して詳しく調査を行い、その成果を展覧会並びに当協会ウェブサイト並びにインターネット上で展開するフリー百科事典『Wikipedia』で情報公開するとともに、服飾文化学会への研究発表などを通じて染織祭並びに染織大
国・京都の認知を上げる。

<今年度調査>

史料からみる調査

- ・行政・参加団体・企業の史料調査
- ・衣装制作に携わった人物調査（染織講社史料、研究者等）

収蔵品からみる調査

- ・衣装の道具類（髪飾り・太鼓・軸等）に関する調査

■ 染織祭関係史料のデジタル保存と保全（継続事業）

染織祭の記録や軌跡を保全するために、当協会が保管する染織祭関係史料をデータ化して保存するとともに、劣化を防ぐ目的で中性紙箱を用いて保管する。

<今年度事業>

- ・史料の内容解説並びにデータ化

■ 染織技術アーカイブ作成に伴う資料調査（継続事業）

当協会在所蔵している染織祭衣装並びに全国染織産地合同制作布地で使われた染織技術の記録と解説を行い、その内容を当協会ウェブサイト上で染織技術アーカイブとして纏め、順次公開する。

<今年度対象資料>

- ・「染織祭衣装」—上古時代16領（北川満哉氏（学芸員）による調査、解説）
- ・「全国染織産地合同制作布地」—7点（福井健二氏（染織専門家）による調査、解説）

■染織祭衣装の補修・修繕並びにレプリカ制作（継続事業）

◎補修・修繕

当協会が設定している「傷みの5段階評価」に基づき、評価4（複数個所に著しい傷み、汚れがあるが修理可能な状態）の衣装を中心に、依頼先と協議の上着手する。

（対象衣装）

鎌倉時代、室町時代より10点

（依頼先）

松下装束店（京都市中京区）

高田装束店（京都市上京区）

◎レプリカ制作

衣装の劣化に伴う将来の備えとして、また職人による技術復興・継承の機会として複製の制作に着手する。また制作工程の過程を動画撮影し、その詳細をインターネット染織講座にて公開する。

（対象衣装）

室町時代12号「石畳取草花文様小袖」

安土桃山時代6号「垣に桜紫陽花文様小袖」

（協力先）

京鹿の子絞振興協同組合

京都刺繍協同組合

■染織祭衣装に関する展覧会協力

美術館等が企画する染織祭衣装に関する展覧会に協力を行う。

◎「室町時代衣装展」への共催依頼

今年は応仁の乱が勃発して550年を迎えることから住民や行政が協働し「東陣」に焦点をあて京都の魅力を更に深めていく東陣プロジェクトを推進する取り組みを行う中で、応仁の乱が勃発した室町時代の衣装を展示し、染織の切り口から一般の方々に啓発する。

日時 5月21日（日）

会場 上京区総合庁舎4階中会議室（上京区今出川通室町西入）

依頼先 京都市上京区役所・東陣プロジェクト実行委員会

併催企画 1. 東陣ゆかりの地に設置する説明版の披露

（予定） 2. 国宝上杉本洛中洛外図屏風の複製パネルの披露

3. 細川氏の末裔と山名氏の末裔の方々による対談

入場料 無料

依頼内容 共催名義並びに当協会所蔵の室町時代の衣装無料貸付と展示協力

■染織資料並びに画像貸付協力

美術館、出版社等の要請に応じて衣装現物や画像の貸付協力を行う。

【染織祭衣装貸付】

- ・公益性のある美術館、博物館等を対象に貸付。
- ・染織祭衣装については返却後メンテナンス作業が伴うため、貸付期間に関係なく、

1 領につき 1 万円のメンテナンス料を徴収する。

<今年度貸付要請先>

◎「万葉の装い part2—額田王から淀殿、そして今へ—」

会 期 平成 30 年 3 月 17 日（土）～5 月 6 日（日）10:00～17:30（入館 17:00）

会 場 奈良県立万葉文化館 日本画展示室（奈良県高市郡明日香村飛鳥 10）

主 催 奈良県立万葉文化館

貸 付

- ・染織祭衣装（上古～江戸時代後期） 合計 10 領
- ・道具類（杼、笠、蝙蝠扇、団扇など） 合計 10 点
- ・旗（上古～江戸時代後期） 合計 8 点
- ・軸（猪飼嘯谷作 上古～江戸時代後期） 合計 8 点
- ・その他（染織祭動画、絵葉書、歴代服装図録等）

【染織祭衣装画像貸付】

・染織文化・染織技術を啓発する当協会の目的に合った内容の出版物や番組等を対象に無償で貸付ける。

「染織技術等継承事業」

■染織技術啓発のための小冊子の配布（幼児～小学生）

きものとそれに伴う技術を簡単に解説した小冊子を十三まいり、七五三詣りの場にて参詣者に配布する。

■染織技術等に関するセミナー（大学生・専門学生～一般）

染織文化・染織技術に関するセミナーを開催する。

- ・「第 1 回染織文化セミナー」（10 月頃予定）
- ・「第 2 回染織文化セミナー」（平成 30 年 3 月頃予定）

■インターネット上での公開講座（一般）

不特定多数の一般の人々に知識を広めていくため、当協会ウェブサイト上でミニ講座の動画配信を行う。

（ミニ講座）「きものの歴史」シリーズ／衣装レプリカ制作工程

（方 法）1 回の講座は 10 分迄とし、動画をインターネット動画共有サービス『YouTube』にアップロードして当協会ウェブサイトにはリンクを貼り閲覧を促す。

「染織技術等継承に関わる助成事業」

染織技術を継承し一般社会に啓発していくことを目的とし、活発に取り組むを行う団体の、営利目的ではない事業で次に該当する事業に助成を行う。

- ①染織技術の研鑽・向上のための事業
- ②染織技術に関する展示公開等による一般社会への啓発事業
- ③その他染織技術の創造に寄与するために必要な事業

2. 会員事業

「知識啓発事業」

■セミナーの開催

染織全般に関する知識向上を目的とし、染織の歴史、文化やマーケティング、ビジネス戦略、次代の染織文化に関する事など、会員の要望に応じて幅広い分野で開催する。(年1回予定)

■主要展覧会への招待

当協会会員の知識普及を目的に、京都市内で行われる主要な展覧会の入場券を年2回会員に送付し観覧を促す。

「染織業界発展事業」

■京都ブレス事業（継続事業）

伝統的な染織技術と先端技術を融合させた新しい素材の開発を行い各社にその情報をフィードバックする目的で行っているが、今年度は和装用特殊オパール糸の開発に引き続き取り組む。

■会員のための助成事業

歴史ある染織技術を継承し、発展することを目的として当協会会員の次に該当する事業に対し助成を行う。

- ①染織技術を使った商品を開発するための事業
- ②染織技術を使って開発された商品を発表するための事業
- ③染織技術を使って開発された商品の販路を拡大するための事業
- ④染織文化・染織技術を啓発するための事業
- ⑤その他染織技術の創造に寄与するために必要な事業

■染織技術の復興に関する情報提供

既に失われた染織技術が全国各地において伝承会等の発足により復興が試みられているケースがある。当協会では産地の掘り起こし並びに商品開発の一助となるよう会員に情報提供を行う。